

1. 日本側参加研究者の体制

①採択年度 (和暦) 平成31 (西暦) 2019	年度	②採択期間 (通常A型は5年以内 B型は3年以内)	5	年間 (1年未満は 切上げ)	③事業の型 (AまたはBを記入)	A	型
④日本側拠点機関名 (和文)	東京大学						
⑤研究交流課題名 (和文)	パンパシフィック・セレンディピティラボ						
⑥課題番号	JPJSCCA20190007						
⑦コーディネーター所属部局名・ 職名・氏名 (和文)	東京大学大学院理学系研究科・教授・合田 圭介						
⑧日本側協力機関名 (和文) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
国立研究開発法人理化学研究所							
京都大学							
名古屋大学							
奈良先端科学技術大学院大学							
神戸大学							
九州大学							
筑波大学							
公益財団法人癌研究会							
東北大学病院							
金沢大学							
北海道大学							
中央大学							
高知大学							
埼玉大学							
日本女子大学							
早稲田大学							
静岡県立大学							

⑨参加研究者数内訳 (様式12 参加研究者リスト に準じてください。重複カ ウントしないこと。)	教授級 以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	参加資格の ない者 (⑩に内訳をご記入くださ い。手引き2-4参照。)	合計	第三国所属の研究者 (内数) (⑪に内訳をご記入くだ さい。)
拠点機関	6	11	7	27	3	54	0
協力機関・協力研究者	11	21	4	9	7	52	0
合計	17	32	11	36	10	106	0

(公開)

⑩手引2-4記載の参加資格のない者の内訳 (適宜、行を加除。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)			
所属・職	専門分野	研究交流での役割	
シスメックス株式会社 中央研究所 先端医療	細胞生物学	インテリジェント画像活性細胞選抜法の応用研究への参加	
シスメックス株式会社 中央研究所 先端医療 研究グループ 研究員	血液学	インテリジェント画像活性細胞選抜法の応用研究への参加	
株式会社CYBO 社長	フローサイトメトリ	インテリジェント画像活性細胞選抜法の応用研究への参加	
株式会社CYBO 副社長	フローサイトメトリ	インテリジェント画像活性細胞選抜法の応用研究への参加	
株式会社エクサウィ ザーズ 会社員	機械学習	インテリジェント画像活性細胞選抜法の応用研究への参加	
東京大学大学院理学系 研究科化学専攻	細胞生物学	インテリジェント画像活性細胞選抜法の応用研究への参加	
東京大学大学院理学系 研究科化学専攻	電気工学	インテリジェント画像活性細胞選抜法の応用研究への参加	
株式会社ライブセルダ イアグノシス	細胞生物学	インテリジェント画像活性細胞選抜法の応用研究への参加	
東京大学大学院新領域 創成科学研究科	微生物学	インテリジェント画像活性細胞選抜法の応用研究への参加	
筑波大学 技術補佐員	生物化学	インテリジェント画像活性細胞選抜法の応用研究への参加	
⑪「第三国所属の研究者」内訳 (5名迄。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)			
所属機関所在国・ 所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	日本側参加者として一体的な協力体制を 確保する方法
該当なし			

2. 経費

事業の型 A 型			
①当該年度の本事業による経費の支出			
経費内訳	金額 (単位:円)	備考	
研究 交 流 経 費	国内旅費※1	360,132	
	外国旅費※1	1,251,738	
	謝金	0	
	備品・消耗品購入費	3,830,801	
	その他経費	7,366,499	
	不課税取引・非課税取引に係る消費税※2	240,830	
	計	13,050,000	
業務委託手数料	1,305,000	研究交流経費の10% (1円未満切捨)。 消費税額は内額とする。	
合計	14,355,000		

※1「国内旅費」「外国旅費」の合計が、研究交流経費支出額の50%を超えていない場合、備考欄にエラーが出ます。

※2 受託機関における課税、非課税(免税)の区分に応じ対象額を算定のこと。受託機関で負担の場合はその旨、備考欄に記載すること。

②研究交流経費(総額)の30%に相当する額を超える各経費目目の増減があった場合の説明事由(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)		
新型コロナウイルス感染症の影響により、国内旅費、国外旅費がともに大幅に減少した。それに伴い、備品・消耗品購入費およびその他経費が増加した。		

③ 本 事 業 の 旅 費 に よ る	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本である者の旅費の総額 (単位:千円)		1,612		
	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本以外である者の旅費の総額 (単位:千円)	日本→日本以外の渡航	0		
		日本以外→日本の渡航	0		
日本以外→日本以外の渡航		0			
④ 相 手 国 側 の 旅 費 に よ る (単位:千円) (千円未満切捨て)	日本又は相手国→日本の渡航	非該当	(単位:千円) 左記のうち、 参加研究者の 第三国所属の 相手国側 の総額	日本又は相手国→日本の渡航	非該当
	日本又は相手国→相手国の渡航	非該当		日本又は相手国→相手国の渡航	非該当
	日本又は相手国→第三国の渡航	非該当		日本又は相手国→第三国の渡航	非該当
	第三国→日本の渡航	非該当		第三国→日本の渡航	非該当
	第三国→相手国の渡航	非該当		第三国→相手国の渡航	非該当
	第三国→第三国の渡航	非該当		第三国→第三国の渡航	非該当

※旅費は、往復の金額で記載すること(例:第三国から日本に渡航の場合、第三国→日本→第三国の往復の渡航費を「第三国→日本の渡航」の欄に記載)。

經由国がある場合は、日本側拠点機関の規定等に基づき、旅費の分類・切り分けを行い、記入すること。

⑤(B型で平成31年度採択課題のみ)中国・韓国・シンガポール・台湾側参加者の外国旅費がある場合 (交流経費の5%以内。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)		
総額 (単位:千円)	手引2-6記載の要件を満たす旨の事由説明	
該当なし		
⑥相手国マッチングファンド(=相手国側拠点機関が本研究課題に使用した研究交流経費)(単位:千円、千円未満切捨て)		
全相手国のマッチングファンド総額 (1年間の金額)	マッチングファンドのある 相手国拠点機関数	相手国拠点機関のマッチングファンド平均額 (1年間の金額)
18,432	7	2,633

3. 共同研究・セミナー

事業の型 A 型		現在の年度に○を付けること→					
①共同研究 (適宜、行を加除すること。)		現在の年度に○を付けること→					
共同研究 整理番号	共同研究課題名 (和文)	相手国	1年目	2年目	3年目	A型のみ	
			実施年度に○を付ける ↓	実施年度に○を付ける ↓	実施年度に○を付ける ↓	4年目 実施年度に○を付ける ↓	5年目 実施年度に○を付ける ↓
R 1	インテリジェント画像活性細胞選抜法の光学システムの性能向上	米国、オーストラリア、カナダ、メキシコ、韓国、中国、台湾	○	○	○	○	○
R 2	インテリジェント画像活性細胞選抜法の画像解析技術向上	米国、オーストラリア、カナダ、メキシコ、韓国、中国、台湾	○	○	○	○	○
R 3	インテリジェント画像活性細胞選抜法のマイクロ流体チップの性能向上	米国、オーストラリア、カナダ、メキシコ、韓国、中国、台湾	○	○	○	○	○
R 4	インテリジェント画像活性細胞選抜法を用いた蛍光プローブ開発	米国、オーストラリア、カナダ、メキシコ、韓国、中国、台湾	○	○	○	○	○
R 5	インテリジェント画像活性細胞選抜法を用いた新規細胞解析法の開拓	米国、オーストラリア、カナダ、メキシコ、韓国、中国、台湾	○	○	○	○	○
R 6	インテリジェント画像活性細胞選抜法を用いたナノ材料細胞プローブの開発	米国、オーストラリア、カナダ、メキシコ、韓国、中国、台湾	○	○	○	○	○

共同研究の実施状況 (当該年度実施の共同研究について、共同研究整理番号毎に、特筆すべき成果、相手国側拠点機関との主体的な取り組み及び今後の研究への波及効果、研究協力体制の構築状況等について記載すること。また、手引5-3変更事例No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。)

R1: 高速細胞撮像光学システムのさらなる性能向上へ向け、観察可能な色数を4色へ増やすことを進めている。本研究で用いている光学系は特殊なため、市販の光学部品では装置に組み込むことができないため、4色化へ向けは特注部品を発注する必要があり、2021年度はその設計を行った。設計はほぼ完成しており、2022年にはその部品を用いて実証実験へと進める予定である。

R2: 2020年度に起案して取り組み始めた機械学習による画像解像度向上手法に関して、さらなる性能向上を図り、さまざまなアプリケーションを試したうえでそれをまとめた論文を投稿し、Lab on a Chip 22, 876 (2022)に掲載され、かつ表紙に選ばれた。本研究では、米国の研究者が共同研究者に加わっているが、2022年度からはC2Cメンバーに加わってもらい、さらに研究を深めていく予定である。

R3: 2020年度に細胞検出頻度を20倍以上向上させることに成功したが、この技術をさらに分取性能向上へと発展させることに取り組んでいる。特に、粘性流体の高速制御に取組み、その成果の一部は国内のワークショップで発表した。今後は、米国拠点機関、オーストラリア拠点機関、カナダ拠点機関、中国拠点機関との連携を深めることによりさらなるアプリケーションの拡大や、マイクロ流路の最適化を進める。

R4: 免疫細胞反応抗原や遺伝子欠損箇所を特定する蛍光プローブなどを始めとし、さまざまな蛍光プローブがインテリジェント画像活性細胞選抜法に適用可能かどうかテストし、新たなアプリケーション開拓へ使用可能な蛍光プローブの見つけ出すことに成功した。特に免疫活性化評価プローブとして表面タンパク局在化が使用できる可能性を見出し、国際学会で報告した。

R5: 米国拠点と共同で新規細胞解析法を開拓することにより、新型コロナウイルス感染症の重症化リスクを試験する手法を開発した。具体的には、血中の血小板の凝集塊を評価することにより、新型コロナウイルス感染症の重症化の典型的な症状の一つである血栓症を引き起こすリスクを評価することができた。本研究は国内外で高く評価され、Nature Communications 12, 7135 (2021)に掲載されるとともに、NHKや日経新聞をはじめとする多くのメディアに取り上げられた。

R6: 国内拠点にて、ランプローブの開発を進め、世界で初めて指紋領域の波長におけるランプローブを10種類取りそろえることに成功した。独自に設計した分子を合成することでプローブ分子を実現し、それをゲルナノビーズに吸収させることによりナノ材料細胞プローブとして完成させた。今後は更なる応用展開へと進める。

②セミナー (当該年度開催分について、記載。適宜、行を加除すること。)				
セミナー 整理番号	セミナー名 (和文) ※振興会名及び本事業名を明記すること。シンボルマーク等で代用した場合、その旨コメントにて記載すること。英文も同様。	セミナー名 (英文)	開催地 (国名・都市名・会場名)	開催期間 (○年○月○日～○年○月○日 (○日間))
S 1	日本学術振興会研究拠点形成事業 Serendipity Seminar	JSPS Serendipity Seminar	日本・東京・理学部 1号館 (オンライン)	2021年12月20日 (1日間)
S 2	日本学術振興会研究拠点形成事業 Serendipity Symposium 2021 (環太平洋国際化学会議 次世代サイトメトリ: 技術と応用)	JSPS Serendipity Symposium 2021 (international Chemical Congress of Pacific Basin Societies - Next-Generation Cytometry: Technologies & Applications)	新型コロナウイルスの影響でオンライン	2021年12月21日～2021年12月22日 (2日間)
S 3	日本学術振興会研究拠点形成事業 Serendipity Seminar	JSPS Serendipity Seminar	日本・東京・理学部 1号館 (オンライン)	2021年12月2日 (1日間)
S 4	日本学術振興会研究拠点形成事業 Serendipity Seminar	JSPS Serendipity Seminar	日本・東京・理学部 1号館 (オンライン)	2021年7月29日 (1日間)
S 5	日本学術振興会研究拠点形成事業 Serendipity Workshop	JSPS Serendipity Workshop	新型コロナウイルスの影響で中止	中止
S 6	日本学術振興会研究拠点形成事業 Serendipity Seminar	JSPS Serendipity Seminar	日本・東京・理学部 1号館 (オンライン)	2021年7月9日 (1日間)

<p>セミナーの開催状況（当該年度開催のセミナーについて、セミナー整理番号毎に、参加者数（総数、参加国名ごとの参加人数（本事業経費による負担の有無を問わない）、交流を通じて得られた研究成果の発表・評価・とりまとめの状況、相手国とのネットワーク形成、若手の育成等の効果等について記載すること。また、手引5-3「軽微な変更の事例」の変更事項No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）</p>
<p>【S1】小松崎民樹先生（教授、電子科学研究所、北海道大学）に講演いただき、知見を広げる機会とした。また、共同研究を始める機会となるように議論の時間も多とった。東京大学本郷キャンパスとオンラインのハイブリッド開催で参加者の正確な人数は把握していないが、国内外から少なくとも計30人以上の参加者があり、活発に質疑および議論が行われた。</p> <p>【S2】新型コロナウイルスの影響で共催していた環太平洋国際化学会議がオンライン開催となったため、我々のシンポジウムもオンライン開催となった。我々のシンポジウムは5回のセッションで構成された。現地時間に合わせるために、早朝3時からセッションを行う必要があるなど、大変な苦勞があったものの、すべてのセッションで多くの質問が出て、充実した会議となった。総数：オンラインであったため、聴衆が何人いたかは把握できていないが、発表者は21人、参加国名ごとの参加人数（発表者）：日本から18人、米国から1人、オーストラリアから1人、韓国から1人、交流を通じて得られた研究成果の発表・評価・とりまとめの状況：本シンポジウムが12月開催であったことから、2021年度中には成果は形としては表れていないが、このシンポジウムをきっかけにコロナ禍で止まっていた交流が一部再開されるなどの効果が見られている、相手国とのネットワーク形成：オンライン開催となったことから、対面に比べてネットワーク形成の効果が低くなってしまうことを懸念し、新たな挑戦を行った。具体的には、日本拠点の若手研究者や博士課程学生にセッション議長を行ってもらい、国際会議の司会進行を経験させた。このことは、彼らの経験となるだけでなく、相手国に彼らの名前を知ってもらうことに貢献した。セッション議長を行ったものはそのセッションで発表もしているので、彼らの研究内容も強く印象に残ったはずで、今後の共同研究等につながるものと期待される。若手の育成等の効果等：発表者、特に議長を経験した学生は研究室内の研究発表においても、これまでも上の視座に立って発表を行ったり、質問したりするようになっており、大きな教育効果があったと言える。</p> <p>【S3】Jochen Guck先生（教授、Max Planck Institute）に講演いただき、知見を広げる機会とした。また、共同研究を始める機会となるように議論の時間も多とった。東京大学本郷キャンパスとオンラインのハイブリッド開催で参加者の正確な人数は把握していないが、国内外から少なくとも計30人以上の参加者があり、活発に質疑および議論が行われた。</p> <p>【S4】Maik Herbig先生（特任助教、大学院理学系研究科、東京大学）に講演いただき、知見を広げる機会とした。また、共同研究を始める機会となるように議論の時間も多とった。東京大学本郷キャンパスとオンラインのハイブリッド開催で参加者の正確な人数は把握していないが、国内外から少なくとも計30人以上の参加者があり、活発に質疑および議論が行われた。</p> <p>【S5】新型コロナウイルスの影響で中止になった。</p> <p>【S6】石井優先生（教授、大学院医学系研究科、大阪大学）に講演いただき、知見を広げる機会とした。また、共同研究を始める機会となるように議論の時間も多とった。東京大学本郷キャンパスとオンラインのハイブリッド開催で参加者の正確な人数は把握していないが、国内外から少なくとも計30人以上の参加者があり、活発に質疑および議論が行われた。</p>
<p>③当該年度に第三国でのセミナー開催があった場合の、本事業の位置づけ、第三国で開催する経済的かつ合理的な理由、そして相手国側拠点との開催経費の分担状況（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引2-7参照のこと。）</p>
<p>該当なし</p>
<p>④当該年度に開催のセミナーで、参加研究者以外の者に本事業経費を使って基調講演を依頼した場合の、日本側拠点機関にとつてのメリット（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引3-4（1）①参照のこと。）</p>
<p>S1-S6：参加研究者は常に同じ目標に向かって密にコミュニケーションを持ちつつ研究を推進している。このことにより、より良い研究成果を得ることが可能となるが、同時に、議論の停滞を招くことが多々ある。参加研究者以外の著名な研究者に基調講演を依頼することにより、参加研究者の視点を広げつつ議論を行うことにより、ブレークスルーが引き起こされる確率が上がる。従って、本事業を力強く推進するために、参加研究者以外の基調講演は極めて重要であるといえる。</p>

4. 研究交流状況

事業の型 A 型 (本シートには、延べ人数で計算した人数を記入すること。)								
①日本→海外の渡航数 (本事業経費による渡航) (適宜、行を加除すること。)								
国名 (派遣先) 第三国は、国名の後に (第三国) と記載すること。	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数 (該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も () 書きで併記のこと。 記入例: 4 (教授級以上1、大学院生3)	
1 米国	0	1	0	3	0	4	該当無し	
計	0	1	0	3	0	4		
第三国への渡航がある場合は、各渡航について、手引3-4 (1) ①記載の要件を (B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も) 満たす旨の事由説明 (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
該当無し								
②海外→日本の渡航数 (本事業経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
国名 (派遣元) 第三国は、国名の後に (第三国) と記載すること。	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数 (該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も () 書きで併記のこと。 記入例: 4 (教授級以上1、大学院生3)	
1 該当無し	0	0	0	0	0	0		
計	0	0	0	0	0	0		
第三国からの渡航がある場合は、各渡航について、手引3-4 (1) ①記載の要件を (B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も) 満たす旨の事由説明 (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
該当無し								
③日本以外→日本以外の渡航数 (本事業経費による渡航) (①、②の合計数の半数以下とすること。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
国名 (派遣元)	国名 (派遣先)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち31日以上 の渡航数 (該当の場合のみ) 役 職ごとの内訳も () 書きで 併記のこと。 記入例: 4 (教授級以上1、大学院生3)
1 該当無し		0	0	0	0	0	0	
計		0	0	0	0	0	0	
各渡航について、手引3-4 (1) ①記載の要件を (B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も) 満たす旨の事由説明 ※③の合計が①と②の合計の半数よりも大きくなる場合、手引2-7 (3) もしくは (4) に該当するセミナー開催に伴う渡航である旨も記載すること。 (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
該当無し								
④海外→日本の渡航数 (相手国側経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
国名 (派遣元)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計		
1 該当無し	0	0	0	0	0	0		
計	0	0	0	0	0	0		
⑤日本→海外の渡航数 (相手国側経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
国名 (派遣先)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計		
1 該当無し	0	0	0	0	0	0		
計	0	0	0	0	0	0		

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	米国
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：カリフォルニア大学ロサンゼルス校 英文：University of California, Los Angeles	
③コーディネーター所属部局名・職名・氏名 (英文)	Department of Bioengineering, Professor and Graduate Vice Chair, Dino DI CARLO
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文：コロンビア大学 英文：Columbia University	
和文：バージニア大学 英文：University of Virginia	
和文：チャン・ザッカーバーグ バイオハブ 英文：Chan Zuckerberg Biohub	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	1	0	1	3	0	5	
協力機関・協力研究者	0	3	0	0	0	3	
合計	1	3	1	3	0	8	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で本事業費で旅費支給の場合のみ。)(5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (マッチングファンドの種類ごとに一行にまとめ、負担額を記載。適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)	パターン1または2をプルダウンから選択ください。 (経費負担区分が該当する相手国のみ。)	1	※参考： 日本側研究交流経費 13,050		
支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2021/4/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)
National Science Foundation	Engineering Research Center for Precise Advanced Technologies and Health Systems for Underserved Populations (PATHS-UP)	4,881	2022/3/25	USD	122.1
合計		4,881			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EP SRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	オーストラリア
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文: ウーロンゴン大学 英文: University of Wollongong	
③コーディネーター所属局名・職名・氏名 (英文)	Faculty of Engineering and Information Sciences, Senior Professor & Director, Weihua Li
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: ディーキン大学 英文: Deakin University	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	1	1	1	2	0	5	
協力機関・協力研究者	0	0	1	0	0	1	
合計	1	1	2	2	0	6	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で本事業費で旅費支給の場合のみ。)(5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (マッチングファンドの種類ごとに一行にまとめ、負担額を記載。適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		パターン1または2をプルダウンから選択ください。 (経費負担区分が該当する相手国のみ。)	1	※参考: 日本側研究交流経費 13,050	
支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例:2021/4/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)
University of Wollongong	Performance Funding	458	2022/3/25	AUD	91.6
合計		458			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EP SRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	カナダ
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：アルバータ大学 英文：University of Alberta	
③コーディネーター所属部局名・職名・氏名 (英文)	Department of Chemistry, Professor, Robert Eerl CAMPBELL
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文：オタワ大学 英文：University of Ottawa	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	1	0	1	2	0	4	
協力機関・協力研究者	0	2	0	0	0	2	
合計	1	2	1	2	0	6	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で本事業費で旅費支給の場合のみ。)(5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (マッチングファンドの種類ごとに一行にまとめ、負担額を記載。適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		パターン1または2をプルダウンから選択ください。 (経費負担区分が該当する相手国のみ。)	1	※参考： 日本側研究交流経費 13,050	
支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2021/4/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)
Canadian Institutes of Health Research (CIHR) CIHR Foundation Scheme Grant	"Optogenetic visualization and manipulation of neural activity"	1,949	2022/3/25	CAD	97.3
Natural Sciences and Engineering Research Council of Canada (NSERC) CREATE grant	"Advanced Protein Engineering Training, Internships, Courses, and Exhibition (APRENTICE)"	975	2022/3/25	CAD	97.3
合計		2,924			

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金 (基盤的経費を含む) をマッチングファンドとして扱うことはできます。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	メキシコ
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文: メキシコ国立自治大学 英文: Universidad Nacional Autonoma de Mexico	
③コーディネーター所属局名・職名・氏名 (英文)	Department of Developmental Genetics, Academic Leader, Takuya NISHIGAKI
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: 該当なし 英文: 該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	2	0	0	5	0	7	
協力機関・協力研究者	0	0	0	0	0	0	
合計	2	0	0	5	0	7	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で本事業費で旅費支給の場合のみ。)(5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (マッチングファンドの種類ごとに一行にまとめ、負担額を記載。適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		パターン1または2をプルダウンから選択ください。 (経費負担区分が該当する相手国のみ。)	1	※参考: 日本側研究交流経費 13,050	
支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例:2021/4/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)
UNAM	PAPIIT (DGAPA IN205722)	608	2022/3/25	USD	122
CONACyT (Mexican Government)	Convocatoria de Investigacion Cientifica Basica 2017-2018	973	2022/3/25	USD	122
合計		1,581			

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金 (基盤的経費を含む) をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	韓国
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：漢陽大学 英文：Hanyang University	
③コーディネーター所属部局名・職名・氏名 (英文)	Department of Chemistry, Professor, Tae-Hyun YOON
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文：延世大学 英文：Yonsei University	
和文：江原大学 英文：Kangwon National University	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	2	0	2	1	0	5	
協力機関・協力研究者	2	0	0	0	0	2	
合計	4	0	2	1	0	7	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で本事業費で旅費支給の場合のみ。)(5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (マッチングファンドの種類ごとに一行にまとめ、負担額を記載。適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		パターン1または2をプルダウンから選択ください。 (経費負担区分が該当する相手国のみ。)	1	※参考： 日本側研究交流経費 13,050	
支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2021/4/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)
The Ministry of Education, Republic of Korea	The Basic Science Research Program (Grant No. 2020R1A6A1A06046728) through the National Research Foundation of Korea	1,005	2022/3/25	KRW	10.0
合計		1,005			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。
※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A 型							
①相手国名 (和文)		中国					
②拠点機関名 (和文および英文)							
和文: 武漢大学 英文: Wuhan University							
③コーディネーター所属 所属局名・職名・氏名 (英文)		The Institute of Technological Sciences, Professor, Cheng LEI					
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
和文: 上海交通大学 英文: Shanghai Jiao Tong University							
和文: 澳門大学 英文: University of Macau							
和文: 天津大学 英文: Tianjin University							
和文: 香港大学 英文: The University of Hong Kong							
和文: 深圳大学 英文: Shenzhen University							
⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	3	0	0	0	0	3	
協力機関・協力研究者	5	3	0	0	0	8	
合計	8	3	0	0	0	11	
⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)							
所属・職名 (専門分野)		研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)					
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で本事業費で旅費支給の場合のみ。)(5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由	
該当なし							
⑧相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (マッチングファンドの種類ごとに一行にまとめ、負担額を記載。適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)				パターン1または2をプルダウンから選択ください。 (経費負担区分が該当する相手国のみ。)		1	※参考: 日本側研究交流経費 13,050
支援機関等名		ファンド・プログラム名		日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例:2021/4/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)
Double-First Class Fund		Ultrafast imaging		1,458	2022/3/25	CNY	19.1
合計				1,458			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	台湾
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：国立交通大学 英文：National Chiao Tung University	
③コーディネーター所属局名・職名・氏名 (英文)	Department of Photonics, Professor, Chia-Wei SUN
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文：国立台湾大学 英文：National Taiwan University	
和文：長庚大学 英文：Chang Gung University	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	3	0	0	3	0	6	
協力機関・協力研究者	0	2	0	1	0	3	
合計	3	2	0	4	0	9	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で本事業費で旅費支給の場合のみ。)(5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (マッチングファンドの種類ごとに一行にまとめ、負担額を記載。適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		パターン1または2をプルダウンから選択ください。 (経費負担区分が該当する相手国のみ。)	1	※参考： 日本側研究交流経費 13,050	
支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2021/4/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)
Ministry of Science and Technology in Taiwan	Intelligent neuronavigation system based on multi-modality optical coherence tomography	6,125	2022/3/25	USD	122.1
		合計	6,125		

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。
※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。